



関東学生大会 (5/4開催) 「単独茶帯の部」最優秀賞



専大少林寺初！ 全組 本選出場 & 上位入賞



単独茶帯の部「最優秀賞」下田梨菜拳士

5月4日に日本武道館で行われた関東学生大会で、「最優秀賞」をはじめ、全組が本選出場という輝かしい成績を収めました。「単独茶帯の部」最優秀賞を受賞した2年次・下田梨菜さんのコメントです。

「58代新体制のもと初めての学生大会のため、新たな部活動のかたちを模索しながら日々努力を重ねて参りました。仲間と共に挑み続けた経験は、技術だけでなく人間的な成長にも繋がったと考えております。

ご指導・ご支援を賜りましたOB OGの皆様にご心より御礼申し上げます。今後も専修大学少林寺拳法部を盛り上げていけるよう、精進してまいります。」



新入生歓迎会で表彰

5月10日、部長交代式を開催



次ページで松原先生の「部長退任の挨拶」

●単独茶帯の部	下田 梨菜	1位
●女子初段の部	黒川 茉優・榎木 花梨 組	3位
●男子初段の部	長島 元基・小野寺 康太 組	5位
●男子茶帯の部	大貫 優亮・高橋 駿介 組	6位
●男女茶帯の部	菅波 雄介・前村 安璃	6位
●女子単独有段の部	力石 和奏	本選出場

現役部員の飛躍に期待

残暑厳しき折、皆さま如何お過ごしでしょうか。我が専大少林寺拳法部は、今年度7名の新入部員を迎えて、総勢18名で元気に修練に励んでおります。

5月4日に開催された関東学生大会では、出場した6組すべてが予選を突破。本選では6位2組、5位1組、3位1組、1位1組という快挙とも言える結果を出しました。次いで7月6日に行われた神奈川県大会でも、1年生を含め上位入賞者が続出、現役のレベルアップを見せつけてくれました。この躍進は、河原井監督による長年の指導の結実であるとともに、昨年度より3名の若きOB OGがコーチとして指導陣に加わったことのインパクトが大きかったと思います。今後の大いなる飛躍が期待されます。

最後になりますが、富山市在住の河上高宏OB (19代) が、7月5日に61歳の若さで急逝されました。私の1年後輩で、学生時代ともに汗と涙を流した仲間でした。ご冥福を心よりお祈りいたします。

緑拳会会長 望月卓視



河上OBの葬儀に参列。
右から、林北陸支部長
(5代)、亀谷OB(3代)、
望月(18代)、木倉OB
(12代)

約30年の長きにわたり専大少林寺拳法部の部長を務めていただいた松原朗先生が、今年3月に国際コミュニケーション学部教授を退官、同時に部長職も退任されました。新部長には文学部哲学科教授の佐藤岳詩先生が就任、5月10日に登戸・柏屋で部長交代式を行いました。

少林寺拳法部 部長交代

部長退任の挨拶



松原先生が勇退、佐藤先生が新部長に

私が専修大学体育会少林寺拳法部の部長に就任したのは、今から30年ばかり前になると思います。専修大学に勤めた時間が38年になりますので、その大部分を部長として過ごしたことになります。きっかけは、前任の部長である哲学科の竹内整一先生からの依頼でした。先生と私は同じ文学部所属であり、しかも私は、当時は課外体育科という名称の体育会各部の世話をする部署の委員をしておりました。そのような経緯があり、竹内先生から部長就任を要請されたわけです。先生はその後専修大学を去り、母校の東京大学に移られました。東京大学は知る人ぞ知る少林寺拳法がとて盛んな大学で、先生ご自身も少林寺拳法部の出身でした。それにひきかえ私は、武道はもとにやったことがない、もちろん少林寺拳法をやったこともない。そのような私に果たして体育会運動部部長の大役が務まるかどうかを密かに心配しながらの就任となりました。

しかしこれは手前勝手な解釈になりませんが、私に少林寺拳法の心得がないことは、悪いことばかりではなかったとも、今にして思っております。つまり、もし多少なりとも腕に覚えがあったならば、学生が中心で運営されるその拳法部に、いろいろな意見を言いたくなかったかもしれません。しかし、私は素人であるがゆえに、その方面についてほとんどノータッチでありました。私がやることは、少林寺拳法部を卒業したOBOGの方々

と現役部員を繋ぐこと、そして現役の諸君が困っていること、問題と想っていることを吸い上げて、それをOBOG会に伝えること。いわばそのような限られたメッセンジャーとしての役割に自分を限定することになったのも、考えようによつては悪いことではなかったと思っております。

そのようにして30年ばかり部長を務めたのですが、後悔した場面は一度もありませんでした。その最も大きな理由は「現役部員たちがとてもしつかりしていた」、古めかしい言い方をすれば「礼儀正しかった」ということだと思っています。いわゆる学生の不祥事で悩まされたことなど全くありませんでした。そしてOBOGの方々も現役のことを大事にしている人たちでした。互いに礼節を大切にしている人間関係の中で、現役学生とOBOG達をつなぐ役割を30年間務めてきたことになりました。

このように離れたがたい少林寺拳法部の部長ではあります。専修大学には「大学教員が部長を務める」という大原則がございます。私は今年70歳をもつて定年退職となり、部長職も次の先生にお願いすることになりました。幸いにも佐藤先生にご快諾をいただきましたが、後任の人選については、私なりに考えることがありました。少林寺拳法部の歴代部長は（私を唯一の例外として）哲学科の先生がなさってきたという経緯があります。これは創部以来の伝統ですが、佐藤先生は文学部哲学科教授なのでその意味でも適任です。

加えてあとの二つ。一つは、若い年齢であること。現役の学生とOBOGを繋ぐためには、一年や二年ではなく、五年や十年でもなく、もつと長く部長を務めることができる方がよいと考えました。そして最も大事なことは、現役の学生と面倒がらずに付き合うことができる思い遣りのある人柄、大らかな人柄の持ち主でなければなりません。そのようなことを思いながら、佐藤先生に白羽の矢を立てたわけです。そして佐藤先生は、唐突な私のお願ひにもかかわらず、聞き届けてくださいました。このようにして。私はすべてに安心して部長を去ることができたのです。

私の専修大学における「少林寺拳法部部長としての30年間」は、誠に幸せな時間であつたと思っております。以上をもちまして、私の退任のご挨拶いたします。

二〇二五年七月十四日



今年度から、佐藤先生が新部長に就任されました。6月14日の新入生歓迎会で、新入生7名と。

新入生 7 名が入部 入部の動機と目標



●諸 鎮泰 (ちえ ちんて)

学部学科：経済学部生活環境経済学科

出身高校：埼玉県立朝霞高等学校

入部の動機は、高校まで心身共に弱い人間だったため強くなりたい思いがあった事と、大学生活でメリハリをつけたいと考えたためです。また護身術を学べる事はとても人生の役に立つと考えました。自分は大学から少林寺拳法を始めたので先輩や経験者には及びませんが、未経験者だからこそ1日1日の練習を大切に、自分に対してもっとストイックになって多くの技や動きを吸収していきたいです。その努力を続け大会で入賞できたらと考えています。大学生活では、きちんとメリハリをつけ、1年生の内は単位を落とさないようにしたいです。

●渡邊 美空 (わたなべ みく)

学部学科：経営学部ビジネスデザイン学科

出身高校：都立清瀬高校

入部した理由は、高校で培った少林寺拳法の経験が生かせると考えたためです。

自分は高校から少林寺拳法を始め、全国大会やインターハイなど普通では経験出来ないような素晴らしい体験を数多くすることができました。仲間の退部や成績の伸び悩みなど辛いことも多くありましたが、その度に仲間との絆が深まっていくことや、努力したことが報われる喜びを感じることができました。

辛いこと以上に沢山の経験をさせてくれた少林寺拳法を高校で辞めてしまうのは勿体ないと感じ、大学でも続けることを決めました。これからは高校では直せなかった自分の癖や弱点を改善し、より良い成績を収められるように一層努力してまいります。

●松尾 歩 (まつお あゆむ)

学部学科：文学部哲学科

出身高校：叡明高等学校

入部した動機は、大学に入って新しい挑戦をしたかったからです。そして興味本位で訪れた体験会にて、技の面白さや演武の迫力を肌で感じ、これだと思い入部を決心いたしました。

自分は、大学4年間を通して、コミュニケーション能力や、語学力を身につけたいと考えています。理由としては、他者の多様な考え方や感性を学ぶことで自分の視野を広げ、人間の理想的な在り方について追求したいからです。

部活動での目標は、何事にも全力で取り組む姿勢を身につけ、努力することの楽しさを実感できる人間になることです。自分の怠惰な部分を変えるため、この少林寺拳法で感じた楽しさを大切に、自分を育てていきます。

●松野 倭士 (まつの やまと)

学部学科：法学部法律学科

出身高校：専修大学附属高等学校

入部の動機は先輩方の人間性、部活内の雰囲気、の心地よさを身に染みて感じ、この部活を逃したら生涯後悔すると悟ったからです。一番の理由は、自分と同じ学部学科の小野寺康太先輩と共に、大学生活を過ごしたいと考えたためです。

部活の目標は、一番は部活内の仲間や先輩方との交流を大切にすることです。次に、少林寺拳法を極めることです。実際に技を受けてみて、本当に身動きが取れない事に驚いたため、少林寺を極めることで心身に強くなれると考えました。また、礼儀作法など、人としての在り方を見つめ直せる点も、少林寺拳法の良さだと考えています。そのため、礼儀を身につけ人として大人になりたいです。

大学生活の目標としては、何事も焦らず、引き延ばさないで取り組み、趣味の歌を上達させつつ部活動に励みたいです。

●佐々木 純 (ささき じゅん)

学部学科：経営学部ビジネスデザイン学科

出身高校：朋優学院高等学校

入部した理由は、高校までに取り組んできたアクション・空手・演劇の経験を活かしながら、新たな挑戦をしたいと考えたからです。また、自由度の高い大学生活の中でも、自らを律し、節度ある行動を心がけられる環境に身を置きたいと思いました。

大学生活では、学業・部活動・アルバイトなど、やらなくてはならないこと・やりたいことのすべてに真摯に取り組み、スケジュール管理力を高めることを目標としています。

部活動では、仲間と切磋琢磨しながら技術を磨き、多数の大会での入賞を目指して日々の修練に励んで参ります。

●小野 滯莉 (おの みおり)

学部学科：国際コミュニケーション学部日本語学科

出身高校：豊多摩高校

入部理由は自分を身体的にも精神的にも鍛えたいと思ったからです。高校生の頃自堕落な生活を送っており、このままでは良くない、自分を変えなければと思いました。

部活動を通じて粘り強く諦めずに取り組み自分を律することの出来る人間になりたいです。そして大会に出場するからには入賞、優勝を目指して日々の修練に励んでいきたいです。

大学生活との両立は大きな課題だと考えているため、自分に甘えずしっかりと両立していきます。この部活で出会うことできた同期や先輩方との縁を大切に、仲間と切磋琢磨しながら成長してまいります。

●本橋 拓磨 (もとはし たくま)

学部学科：法学部法律学科

出身高校：専修大学附属高等学校

入部した動機は、体験会のときに見た先輩方の演武の力強く美しい動きに惹かれ、技のカッコよさに一目惚れしたからです。

未経験の分野でしたが、自分もあんな動きが出来るようになりたいという憧れから、入部を決めました。入部したからには、技術の習得はもちろんのこと、礼節や協調性なども大切に、心身ともに成長することを目指しています。

大学生活では、学業や趣味、部活、アルバイトなどさまざまなことに挑戦し、充実した日々を送りたいと考えています。新しい挑戦への不安や物事の両立に悩むこともありますが、自分の限界に挑みながら、4年間を通して自分の可能性を広げていきたいです。



6月14日、OBOG現役合同練習会を生田キャンパス第一体育館で行いました。

2024年全国大会「最優秀賞」の小栗コーチ(55代) カ石(4年次)ペア
川崎市スポーツ協会「奨励賞」
河原井監督(18代)は「功労賞」



平田和輝OB

(緑拳会副会長／56代)

神奈川県大会

「論文発表の部」

最優秀賞

県代表として全国大会に出場

活躍するOBOG



【訃報】

7月5日、河上高宏OB(19代／北陸支部)がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



この度、7月6日に開催された神奈川県大会の「論文の部」で最優秀賞を頂き、全国大会における同部門の県代表に選出されました。

論文は、私自身の身近な実体験から得た気づきをもとに、「自分にもできること」を探して実際に行動することの重要性を説き、行動を躊躇してしまう人たちの背中を後押しすることを意図して執筆いたしました。

大会の最後に全体の前で発表する場が設けられ、終了後、多くの方から「感動した」「勇気をもらえた」などと声をかけていただきました。それらの言葉によって、誰かに届けようとして行ったことや想いは、想像以上にしっかり人の心に届いているのだと気づき、自分の言動が周りに与える影響の大きさを実感しました。

今後は今回の貴重な経験を胸に、さらに多くの人に勇気を与えられるよう、より一層努めて参ります。

2025年度定期総会

全ての議案が満場一致で可決

2025年度定期総会を生田キャンパスで6月14日に開催しました。出席者13名、委任状46名の承認を得て、全ての議案が満場一致で可決されました。

星野衛 名誉会長が勇退

今般、星野衛名誉会長(3代)から退任願いが提出され、定期総会で受理されたことをご報告いたします。

長年にわたって会長職を務められOBOG会を先導して頂くとともに、名誉会長になられてからも、物心ともに現役部員の支援に尽力してまいられました。

あらためて感謝の意を表します。

